

官民連携の取組により、持続可能な循環型の里山暮らしの実現を目指す ～大和高原「福住村」プロジェクト（天理市）～

官民連携による地域課題解消へ

天理市の高原地域では、市の都市部と比べ人口減少や少子高齢化が進展しており、農業の後継者不足による耕作放棄地の拡大、空き家の増加などの地域課題が顕在化しています。

こうした地域課題の解決に向け、「天理市オーガニックビレッジ宣言」に基づくこの地域を中心とした有機農業の推進を核とし、環境や教育連携、移住定住促進等の各分野において、「持続可能な循環型の里山暮らしの実現」を目指すプロジェクトを地域住民と官民連携により推進しています。



天理市オーガニックビレッジ宣言

地域資源の新たな価値を創出する「福住村」プロジェクト

● 耕作放棄茶畠再生プロジェクト

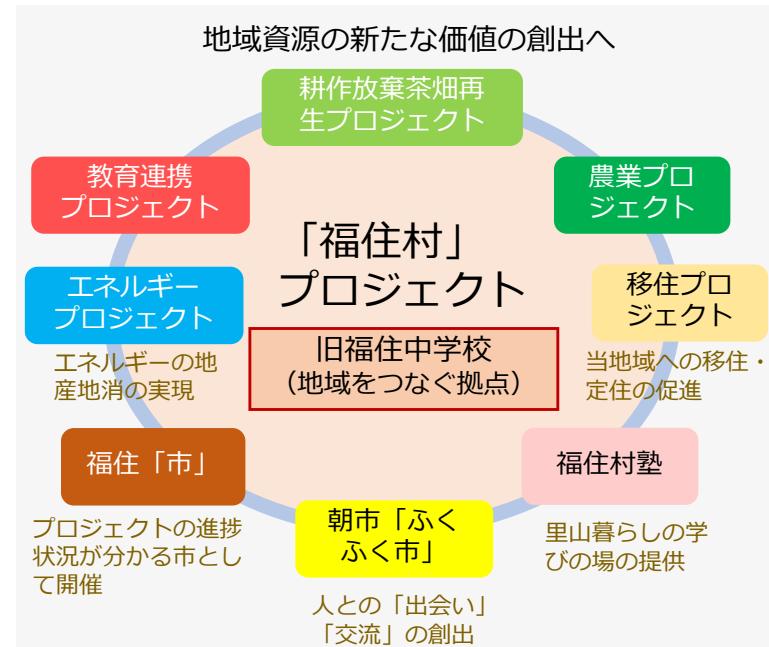
かつてお茶の産地であった福住地域に残る耕作放棄茶畠を農薬・化学肥料のぬけた地域資源と再評価し、放棄茶畠の茶の木も葉も全てを原料として使用する「里山三年晩茶」の生産に取り組んでいます。

● 農業プロジェクト

付加価値の高い商品作物づくりを目指し、さつまいもや大和ルージュ（赤いスイートコーン）等の有機栽培に地域の農家が果敢に挑戦しています。

● 教育連携プロジェクト

福住小中学校では、有機の米づくりや里山三年晩茶のパッケージづくりなど、授業の中で「福住村」プロジェクトと連動した活動を実施することで、子どもたちも地域づくりに参加しています。



「福住村」プロジェクトの更なる推進に向けて～農村型RMOの始動～

地域課題の解決に向け、農業を中心に様々な分野で活動を続けてきた「福住村」プロジェクトは、「天理市オーガニックビレッジ宣言」による施策と連携しながら、農村型RMO（地域運営組織）である「福の住む里協議会」の設立という次のステージへ進んでいます。

今後は、地域住民を主体とする「福の住む里協議会」を中心に、官民様々なステークホルダーが連携し、「持続可能な循環型の里山暮らしの実現」に向けた地域再生の取組を継続・発展させていきます。



耕作放棄茶畠の再生



大和ルージュの収穫作業